

レズビアン・ゲイの親と友達の会 (PFLAG) は自主的に活動する国際支援団体で、ストーンウォール人権パレードの後 1979 年に米国で発足しました。

PFLAG の主な目標は、愛する人の性的指向を理解しようと苦しんでいる家族をサポートすることです。

息子さんや娘さんが自分自身の性的多様性について板挟み状態で悩んでいることをご両親に理解していただくために、私どもの提供する情報がお役に立つように願っています。通常私たちが親として感じる気持ちや不安は世界共通ですが、文化的な背景からそのような感情が一段と強くなることがあります。

全ての家族はそれぞれ独自の異なる価値体系と道徳、信念をもつことを PFLAG は理解しています。PFLAG ブリスベン支部がまとめたこの資料は、愛する人が自分の人生のとても重要な一面を家族に告げる時、その家族が経験する気持ちと感情がわかる人々が他にもいることに気づき安心していただくための手引きです。

このような時、ご両親はこのことについて誰にも話ができないと思い、孤独を感じるかもしれません。このような問題をもっているのは自分だけだにご両親は感じることが多いです。しかし、人種や宗教、文化にかかわらず、家族が知っている場合と知らない場合を含めて、統計的には 5 つに 1 つの家庭にレズビアンまたはゲイの家族がいることになっています。

息子さんや娘さんが最初に同性愛者として家族に「カミングアウト」する時

多くのご両親は息子さんや娘さんからホモセクシャルであることを初めて告白される時、次のように様々な感情を経験します。

- ショック – 聞いていることを信じず、全てが悪い夢であるように願う。涙を流してひどく悲しむ。
- 失望 – 結果としてうつ病になる親もいる。
- 自責 – 自分の過去の罪に対して罰が下ったのではないかと思う。
- 怒り – よくもこんなことができるな、私たちはいい親だったのに。
- 嫌悪 – ある人にとって自然な性的指向が、他の人にとっては正常でないということを理解しない。
- 混乱 – 自分の子供にひどいことを言い、後で後悔する。
- 罪悪感 – 自分は悪い親で、こうなるのを防ぐことができたはずだったのと思う。
- 恥と不安 – 友人や他の家族に知らせると、やはり悪い親だと思われるだろうと心配する。
- 非難 – 両親がお互いを責め合い、母親が子供を甘やかしてしつけが十分されていないと非難する。もしくは父親が不在で、または厳しすぎると責められる。また、こうなるのに気づかず防ぐことができなかつたと両親が自分たちを非難することがある。

ご両親の大半はなぜ自分の子供が同性愛者になったか、「どうしてうちの子が」と理由を探すものです。しかし現実には、私たちが良い親か悪い親かは関係ありません。自分の息子や娘がゲイ・レズビ

アンになるのを防ぐことはできず、彼らもそれを防ぐことはできないのです。それは選択の問題ではありません。

研究によれば、なぜ私たちが異性愛者として生まれてくるかを証明する理論はなく、なぜ同性愛者として生まれてくるかを証明する理論もありません。親として私たちは、子供がホモセクシャルになることを選んだわけではなく、中にはつらい人生を送る子たちもいることを理解する必要があります。それは昔考えられていたような精神病ではないと科学者は述べています。さらに、それは異性愛と全く同じで自然に生じる性的な変異であると言っています。それは私たちの多くには理解できない単なる指向にすぎないのです。

レズビアンとゲイの中には、家族に告白すると両親をがっかりさせるだけだと思える人もいます。残念なことに、殴られたり家族から追い出されたり、人種や宗教によってはもっとひどいことを恐れる人もいます。このような人生を選んだり危険をおかしたりする人がいるのでしょうか？私たちの息子や娘の多くにとって、親がそうであってほしいと思うように（つまり異性愛者として）ふるまうことは難しすぎるため、だからこそ非常に危険だとわかっているにもかかわらず正直にならざるを得ないのです。

大勢のご両親にとってお子さんに起こっていることを理解するのは難しく、嘆き悲しむ期間を経験します。これはまさに実感できることで、ご両親の多くはまるで自分も持っていると思っていた子供が死んでしまい、代わりに知らない人が自分の目の前に立っているように思うからです。

また、子供が自分のように伝統的な道として結婚し子どもを持つのを期待できなくなったことをご両親は悲しむものです。これはどんな人にとっても、つらいことです。

現実的に、自分の息子や娘が本当は変わっていないことに私たちは気づく必要があります。彼や彼女は全く同じ人間です。彼らは私たちが理解できない彼らのあることについて、正直になっているだけなのです。

レズビアンとゲイに対する差別は、多くの国で少数グループに対する最後の差別であり、親と子供が共有しない唯一の経験です。もし私たちの子供が宗教や人種のために社会的に差別されているなら、親子は同じで同様の差別を経験するので、親として共感することができます。しかし、性的な差別は子供だけのことで、社会だけでなく時には家族からも差別されることが多いものです。このため、私たちの息子や娘にとっては悲劇的な結果になることもあります。

私たちの子供は親からのサポートが必要です。親としての愛情は条件付きであってはなりません。

自分の息子や娘は同性愛者でありたくはないと思っていることを、私たちは理解する必要があります。彼らは少なくとも両親を失望させることになり、最悪の場合は拒否されるかもしれないということがわかっています。一般的に若者は自分の性的指向について家族に告げる前に長い間思い悩んでいるものです。

大勢の若者にとって、文化と家族の名誉が危険にさらされることは周知の事実です。時には、最初に「カミングアウト」するこの時期に息子や娘を守り保護するために、力をふりしぼる必要があります。

若者の多くがうつ病に苦しみ自殺を考える理由として、自分の同性愛を秘密にすることが難しいから、また家族に告白した場合の影響を恐れていることがあります。さらに、家族に拒否されたから、ホモセクシャルであるため自己嫌悪に苦しんでいるということもあります。

親として私たちは自分の息子や娘が同性愛者であってほしくはないかもしれませんが、同時に彼らも同性愛者でありたくはないということを理解しなくてはなりません。私たちの子供が「カミングアウト」しても、彼らが道徳心をなくしたり異常者になったり家族としての価値観を失うわけではありません。彼らは恐れ避けるような人間ではなく、軽蔑されバカにされるべきではありません。

お子さんに同性愛者であることをやめてほしいと願うご両親もいます。これはご両親が親戚や近所の人の前で面目を保つために、またご両親の宗教的信念のためによくあることです。しかし、これは公平なことでしょうか？ご両親はお子さんの立場に立って、もし自分が本来の性的指向を我慢してホモセクシャルとして生活することができるかどうか、考えてみるべきです。そんなことができるでしょうか？それは無理です。なぜなら私たちにとってそれは自然なことではなく、気持ち悪く感じるからです。

異性愛は全ての人にとって自然ではなく、生まれながらの本能を抑圧するのは口で言うほど簡単ではないため、長期的にはとても危険なことになります。

50 年前よりも現在の方が同性愛者が増えたと考える人は多いですが、これは誤りです。はるか昔から同性愛はずっと存在してきました。ゲイやレズビアンであることを周囲に知らせるようになったのは、現在は理解が深まり自分に正直になる人が増えてきたからです。

社会で多くの人に共通の問題は、レズビアンとゲイに対する先入観があることです。愛する人が自分自身について知らせる時、それはご両親の価値観と時代遅れの考えに立ち向かうことにもなり、とても難しいことです。愛する人を受け入れるまでに長い時間がかかる家族はたくさんいます。

子供が同性愛者であることについての父親の対応

特に法則はなく、父親は皆それぞれ違う反応をします。応援する人もいれば、泣いたり絶望する人、罵倒したり暴力をふるう人もいます。また、同性愛の問題がまるで存在しないようなふりをする人もいます。父親はたいてい母親と異なる問題をもつものです。

父親は次のように感じる場合があります。

- 自分の自尊心が傷つけられた。
- ゲイの子供をもつのは男らしくない。
- 他人のせいにしないと気が済まない。
- 人から個人的に批判されるだろう。

- 恥ずかしい。
- 子供の良い手本になれなかった。

私たちはみんな受入れる必要があります

私たちのレズビアン娘もゲイ息子も、異性愛者の子供達と全く同じように受入れられる必要があります。私たちが子供達の愛と尊敬を維持したいと思うなら、彼らを完全に尊重しなければならないということにご両親は気づかなければなりません。

同性愛者の子供が直面している問題を理解するために、親としてできるだけ多くの情報を得るように努力するべきです。それは自分の子供からホモセクシャルだと告白された時には簡単なことではなく、ご両親としてもこの知らせに葛藤しているものです。それでも親から子への愛情と思いやりが変わりはなく一緒に良い結果を生もうとしていることを、私たちの子供は知る必要があります。

理解するために私たちは子供と話をし質問をしなければなりません。そうすることで親として理解を深め、息子と娘に正直になるよう励ますことができるのです。

参考になる質問の例

- どれくらいの間わかっていたか？
- 友達には話したか？
- 「カミングアウト」してから敵になった人はいるか？

- パートナーはいるか？もしいるなら、どれくらいの期間か？
- いつ彼・彼女に会えるか？
- 私たちに告白することについて何を一番心配していたか？
- 「カミングアウト」することは思った通りに難しかったか？
- あなたの性的指向についてどんなことを私に知ってほしいか？
- どうすればあなたを一番よく支援できるか？
- 家族や友達に話してもよいか？
- 家族や友達に話す手伝いがしたいか？
- 正直に私たちに話すことができ嬉しく思うか？
- レズビアン・ゲイとして将来どのような人生を送りたいか？
- もし問題があればどのようなことか？
- どんなことを心配し不安に思うか？
- あなたの人生は幸せか？

お子さんと話をする時は、辛抱強くそれぞれの質問に最後まで答える時間をあげてください。

最初の話し合いで、全ての質問の答えが聞けるとは思わないでください。

話し合いに参加するみんなが気まずい思いをするかもしれないことを理解し、思いやりを忘れないでください。

自分にはわからないが理解したいと思っていることをお子さんに説明してあげてください。

否定的なことは言わず、お子さんが話さなければならないことに耳を傾けてください。親として否定的になり心配になるでしょうが、できればそれをお子さんに伝えないようにしてください。もしどうしても何の役にも立たず、かえって息子さん・娘さんがこの話題についてご両親に再び話をするのをためらわせてしまうかもしれないからです。

若者は他人から判断され否定されることに最初は神経質になり、とても傷つきやすくなっているかもしれないということを念頭に置いてください。

最後に、お子さんを抱きしめ、ご両親の愛情が無条件であることを知らせてあげるとは、息子さん・娘さんとの強いきずなを保ち家族が団結するために大きな役割を果たします。

個人的な意見

ゲイの息子をもつ親として、心から受入れ理解するまでに時間がかかることはわかりますが、子供への愛情は条件付きであってはなりません。ゲイの息子を受入れることで、人生での親の愛と支援を当然の権利だと思っている異性愛者の兄弟よりも、彼の方が私たち両親に対してより誠実で感謝していることに気づきました。

シェリー・アーエージェント (オーストラリア勲章 OAM)